



ジュネーブでのサバイバルフランス語

株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室 国際標準化推進室長

さくらい よしと
櫻井 義人



1. はじめに

ジュネーブに何度か行かれた方は、街中では意外に英語が通じないことに気がつかれていると思う。国際都市ではあるが、もともと外交官たちはフランス語で会話していたし、スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4言語もあるし、ジュネーブの小学校、中学校で教える第一外国語はドイツ語である。というわけで、なかなか英語が入り込む余地がなかったのであろう。10年ほど前に、ジュネーブ大学欧州研究所が「国際都市ジュネーブのイメージ」について1200人のジュネーブ市民と国際公務員を対象に聞き取り調査を行った。その中に「英語がフランス語に取って代わるのは不便」という回答が、ジュネーブ市民69%は当然としても、国際公務員でも62%もあったという。それほどまでにジュネーブはフランス語の街なのである。

私が仕事で初めてジュネーブを訪れたのは、1991年で、それ以来二十数年間、50回以上は行ったと思う。最初に訪れたとき、あるレストランでステーキを頼んだら、その店では4種類のソースが選べるのだと、得意げに言われた。では、その4種類を説明してくれと言ったら、その店員は英語では説明できなくて、結局適当にやってくれということになってしまった。仕事をするには英語で支障はないので、こういうちょっとしたことでフランス語ができたら、と思わない人には本稿を読む必要はない。買い物でのちょっとしたやり取りでもフランス語でできたら、と思う人に向けて書いてみる。

かく言う私も、フランス語を正式に学んだことはない。大

学生のときに1年だけNHKラジオのフランス語講座を聞いていたことがあり、それがベースになっている。あとは何冊かの本を読んだ独学である。ただ、最初にラジオ講座で始めたのが良かったのであろう、発音が比較的身につけていて、私のしゃべるフランス語は最初から割とよく通じた。

2. 発音編

前置きはこのくらいにして本題に入ろう。フランス語は英語と違って、つづりと発音がほぼ対応するので、規則を覚えてしまえば知らない単語でも発音することができる。英語と違って語尾変化がいろいろあるのを嫌う人が多いが、語尾に付く子音は発音しないことが多いので、書くのは大変だがしゃべる方は比較的やさしい。単数形・複数形もつづりは違うが読み方は同じという単語も多い。というわけで、まずは発音の話から始めよう。覚えておくと便利なので、数字の読み方を例にして説明しよう。なお、本稿ではフランス語の文字、単語はイタリックで表記した。イタリックではないアルファベットは、英語若しくは英語とフランス語で共通の単語である。

フランス語の「いち、に、さん」が「アン、ドゥ、トロワ」であることは、皆さん知っていると思う。ところがこれを正確に発音するのは結構難しい。まず「アン」であるが、フランス語特有の鼻母音という鼻に抜く音である。なお、フランス語特有の発音の発音記号は皆さんなじみがないと思うのでここでは使わない。便宜的にカタカナ表記をするが、もちろんこれを発音の参考にしてはならない。鼻母音は、できるに越したことはないが、サバイバルフランス語として注意すべきは、実は、鼻に抜くことではなく、「アン」というカタカナに引っ張られて、nとかm、すなわち、舌を上あごにつけたり、口を閉じたりを決してしないということである。「ア」の口の形のままを保つのが秘訣である。だから「アン」というよりは、「ア〜」という感じである（これも便宜的カタカナ表記として使っている）。鼻母音には他にも「オ」や「エ」の鼻母音があるが、皆同じである。「オン」や「エン」ではない。「オ〜」や「エ〜」である。

さて、ここから少し話がややこしくなる。フランス語の



「いち」*un*を「アン」と書いたが、実は*un*は「エ」の鼻母音である（後述するが、厳密に言うとは「エ」には、「イ」に近い「エ」と「ア」に近い「エ」があって、それぞれに対応する鼻母音があるのだが、日本人が区別するのは非常に難しいのでサバイバルとしては区別しないことにする）。*un*のほかに「エ」の鼻母音になるつづりには、*im, in, ym, yn, aim, ain, eim, ein, um*がある（これもサバイバル的には、*im, in, ain, un*くらいを覚えれば十分である）。例えば、international「インターナショナル」はフランス語発音では「アンターナシオナル」である。ワインの*vin*「ヴァン」もこの発音だから重要である。「エ」の鼻母音は日本人には完全に日本語の「アン」に聞こえるし、そのように発音すれば十分通じる。「オ」の鼻母音になるつづりは、*om, on*だけである。例えば*bonjour*「ボンジュール」の*on*である。これも日本語の「オ」に極めて近いので、ほとんど意識する必要はない。気をつけるのは前述のように「ン」とははっきり言わないことである。注意深く聞いてみると「ボンジュール」ではなくて「ボ〜ジュール」と聞こえてくるはずである。一番気をつけなければならないのは「ア」の鼻母音で、相当するつづりは、*am, an, em, en*である。日本人には「ア」ではなくてほとんど「オ」に聞こえる。但し日本語の「オ」とは違って口の奥を大きく広げて「ア」を言う構えで「オ」と言う感じである。数字の「百」を*cent*「サン」（英語のセンチに相当する）と言うが、日本語的に「サン」と発音すると、数字の「五」である*cinq*「サンク」と間違われる。ホテルの105号室は、*cent cinq*であるが（フランス語では英語のように二桁ずつ区切って言わないので日本語と同じように「ひゃくご」である）、これがホテルのフロントで通じれば完璧である。*en*というスペルは、結構出てくるので重要である。英語の*center*は、フランス語では*centre*「サントル」だし、英語の*one moment*は、*un moment*「アン・モマン」である（はじめの「アン」は「エ」の鼻母音、「モマン」の「アン」が「ア」の鼻母音）。*un moment*「ちょっと待って」は覚えておくと良い。フランス語のテキストにはよく*un bon vin blanc*という言い回しの例が出てくる。「一杯の美味しい白ワイン」という意味で、カタカナで書けば「アン ボン ヴァン ブロン」であるが、上記の鼻母音がすべて含まれているのである（最初の「アン」は「イ」に近い「エ」の鼻母音、「ボン」は「オ」の鼻母音、「ヴァン」は「ア」に近い「エ」の鼻母音、「ブロン」は「ア」の鼻母音）。

「いち」の話が長くなったが、ようやく「に」*deux*である。*eu*のつづりは、カタカナで書けば「ウ」であるが、口をとんがらせない、思い切り口の力を抜いて「ウ」と言う感じであ

る。日本語の「ウ」と「ア」と「オ」の中間の音である。日本語的に「ウ」というと*deux*ではなくて*doux*（甘い）になってしまう。ちなみに*ou*のスペルは、ほとんど日本語の「ウ」だと思ってよい。英語の*you*は、フランス語では*vous*「ヴ」であるが、この「ウ」は日本語的な「ウ」で良い。では*u*というつづりは何と発音するかというと「ウ」ではなくて「ユ」になる。ITUのフランス語つづりはUITになるが、発音は「ユ・イ・テ」である。ところで、*deux, vous*に見られるようにフランス語では語尾の子音をほとんど発音しない。例外は、*c, f, l, q, r*であるが、上記の*cinq*「サンク」のように、*c, l, q, r*はほとんど聞こえないので、サバイバル的には語尾の子音は発音しない、と覚えておいて良い。ただ、さすがにはごまかせない。例えば、数字の「きゅう」が*neuf*「ヌフ」であることを覚えておけば良い。

「さん」*trois*には、問題の*r*の発音が含まれているが、*r*のサバイバル発音については後述する。ここではまず*oi*の発音を覚えよう。*oi, oy*は「ワ」若しくは「ウワ」（発音記号で書けば[wa]）である。*t*と*r*という二つの子音の後に[wa]と発音するので、*trois*は結構難しい。ちなみに*toilet*は英語では「トイレット」だが、フランス語では「トワレ」であるし、*royal*は英語では「ロイヤル」だが、フランス語では「ロワイヤル」である。*oi, oy*は「ワ」である、というのは忘れがちなので、よく覚えておこう。

ここでいよいよ*r*の発音である。フランス語の*r*の発音は英語とはもちろん違おうし、ドイツ語ともイタリア語とも違う。大抵の言語の*r*は日本人は巻き舌でごまかせるが、フランス語ではなかなかそれでは通じない。フランス語の*r*は、うがいのときのガラガラの「ガ」である（「ラ」ではない）。喉の奥を振るわせるのである。したがって、日本人にはほとんど聞き取れないと思って良い。だからサバイバル的には非常に簡単で、日本人はフランス語の*r*は発音しなくて良い。「ボンジュール」は「ボ〜ジュール」だと書いたが、実はもっとよく聞くと「ボ〜ジュ〜」であることが分かる。「ル」はほとんど聞き取れないはずである。そうは言っても*trois*のように単語の中に挟まると発音しないのも難しい（でも*trois*をカタカナ的に「トロワ」というよりは、すばやく「トワ」と言えば十分通じるのでお試しあれ）。それではあんまりだ、という人は日本語の「ハヒフヘホ」の[h]を少し強めに発音すれば良い。ちょうど喉の奥がきしんで*r*らしい音になるはずである。フランス語には[h]の発音は存在しないので、hのつづりは一切読まないから、これで十分ごまかせる。例えば英語の*see you*に相当する*au revoir*は「オー・ルボワール」でなくて「オー・



フボーフ、メニュー（お品書き）の*carte*も「カルト」ではなくて「カフト」という具合である。ちなみにワインリストは*carte des vins*「カフト・デ・ヴァン」である（*vins*は*vin*の複数形だがは発音しない）。

もう幾つかの規則を覚えると、フランス語のつづりを見て発音できるようになるので頑張ろう。まず母音から。*a*は「ア」であって英語のように「エイ」にはならない。*table*は「テーブル」であって「テーブル」ではない。*i, y*は「イ」で特に問題はない。「ウ」には、前述のように日本語に近い「ウ」の*ou*と、力を抜いた「ウ」と「オ」と「ア」の中間の*eu, oeu*がある。*u*は「ウ」でなくて「ユ」である。「エ」には、厳密に言うと「イ」に近い「エ」と「ア」に近い「エ」があるのだが、とりあえず日本語の「エ」で通じる。ただし「エ」と発音するつづりは、ちょっと面倒である。*ai, ei*と*e*に何らかのアクセント記号が付いたもの（*é, è, ê*）、それに1音節で子音で終わる単語の*e*（*des*「デ」、*les*「レ」等）、後ろにふたつ同じ子音が続く*e*（*adresse*「アドレス」等）、*s, m, n*以外の語尾の子音の前の*e*（*avec*「アヴェク」等）は、全て「エ」の発音になる。それ以外の普通に出てくる*e*はすべて、例の力を抜いた「ウ」になる。ここはややこしいので、とりあえず*ai, ei*と*é, è, ê*は「エ」、それ以外は「ウ」とっておけば良い。「オ」の発音になるつづりは、*o, au, eau*だけである（*ou*は「オ」でなくて「ウ」であることに注意）。*au*と*eau*は、「オ」というより少し長めで「オー」に聞こえる。「美しい」という意味の*beau*「ボー」、地名*Bordeaux*「ボルドー」の「オー」である。母音の発音については、以上でほぼ全て説明した。

子音は英語とあまり変わらないので、大体読めると思うが、幾つか注意するものを挙げておく。*c*は*a, o, u*の前では[k]（*café*「カフェ」等）、*i, e*の前では[s]（*cinéma*「シネマ」等）になる。同様に*g*は*a, o, u*の前では[g]（駅*gare*「ガール」等）*i, e*の前では「ジュ」（数字の3のような発音記号）（年齢*âge*「アージュ」等）になる。なお、*c*に尻尾のついたç（セディユー）は常に[s]の発音である。*ch*は*chocolat*「ショコラ」で分かるように英語のように「チ」にはならない。*gn*は、山*montagne*「モンターニュ」のように「ニュ」とか「ニャ」になる。*ph*は英語と同じで[f]の音、一方*th*は英語と違って単に[t]の音になる（お茶*thé*「テ」等）。*q*あるいは*qu*はフランス語にはよく出てくるが、英語と同じで[k]の音になる（*publique*「ピューブリック」等）。あと特殊な発音として、*il, ill*が「イル」ではなくて「イユ」になることが多いが、*mille-feuille*「ミルフィーユ」などの例もあって簡単ではない。以上をマスターすれば、大抵のフランス語は読めるはずであ

る。読めるとなると覚えるのが格段に早くなるはずなので、是非頑張ってください。フランス語には英語と同じようなつづりの単語がたくさんあるので、フランス語発音をマスターすれば結構使える。

3. 数字編

以下では、いよいよこれだけは覚えておくと良い、という単語や文章を幾つか挙げてみようと思う。まずは数字の続きを。

1 *un*「アン」、2 *deux*「ドゥ」、3 *trois*「トロワ」、4 *quatre*「カトル」、5 *cinq*「サンク」、6 *six*「スイス」、7 *sept*「セツ」、8 *huit*「ユイト」、9 *neuf*「ヌフ」、10 *dix*「ディス」

語尾の子音は発音しない、と言いながら結構発音するものが多いが、これはこんなものだと思うしかない。なお、後ろに女性名詞が付く場合、*un*だけは*une*「ユヌ」になる。例えば、*café*は男性名詞なので*un café*で良いがビール*bière*は女性名詞なので*une bière*「ユヌ・ビエル」である。ちなみに瓶（ボトル）*bouteille*「ブテーユ」も女性名詞なので、「1瓶の赤ワイン」は、*une bouteille de vin rouge*となる。*de*は英語の*of*に当たる。フランス語では形容詞は名詞の後ろにくるので、赤ワインは*vin rouge*「ルージュ」、白ワインは*vin blanc*「ブラン」、グリーンサラダは*salade verte*「サラダ・ベルト」。ついでに色を少し挙げておくと、青は*bleu*「ブルー」（ただし英語のように「ルー」とはつきり言わない。euなので「プロ」に近い）、黄色は*jaune*「ジョース」、黒は*noir*「ノワール」。だからブラックコーヒーは*café noir*である。数字の続きに戻ろう。英語は11 elevenと12 twelveを覚えればあとは10+3 thirteen、10+4 fourteenでいけるが、フランス語は16まで覚えなければならない。

11 *onze*「オンズ」、12 *douze*「ドゥーズ」、13 *treize*「トレーズ」、14 *quatorze*「カトルズ」、15 *quinze*「カーンズ」、16 *seize*「セーズ」

あとは10+7、10+8、10+9で良い。

17 *dix-sept*「ディセツ」、18 *dix-huit*「ディズユイト」、19 *dix-neuf*「ディズヌフ」、20以降は規則的になる。

20 *vingt*「ヴァン」、21 *vingt-et-un*「ヴァンテ・アン」、22 *vingt-deux*「ヴァント・ドゥ」、23 *vingt-trois*「ヴァント・トロワ」、29 *vingt-neuf*「ヴァント・ヌフ」、30 *trente*「トラン」、31 *trente-et-un*「トランテ・アン」、32 *trente-deux*「トランテ・ドゥ」、・・・

以下同様で、

40 *quarante* 「カラント」、50 *cinquante* 「サンカント」、60 *soixante* 「ソワサント」、70 *septante* 「セタント」、80 *huitante* 「ユイタント」、90 *nonante* 「ノナント」、100 *cent* 「サン」。

なお、70、80、90については、スイスのフランス語圏でのフランス語は、フランスのフランス語とは異なる（フランスのフランス語では、70=60+10、80=4×20、90=4×20+10に相当する言い方になるので、非常にややこしい）。スイス・フランス語は、単純な10進数だと解説してあるものがほとんどであるが、実は、ジュネーブ州では、80だけはフランスと同様に*quatre-vingts* 「カトルヴァン」と言うのだそう（フランス語の10進法と20進法については、歴史的経緯がいろいろあるので、興味がある人は検索してみると良い。20進法によれば、1から20までの言い方を覚えれば、400まで数えられるとのこと・・・20×20=400だから）。

4. 単語編

次に、よく使う単語を英語と併記して書いておく。発音のカタカナ表記は、読みにくいもの以外はあえて省略するので、発音編を参照しながら考えて欲しい。

Yes = *Oui*、No = *Non*（否定疑問形に対する肯定は*Oui*ではなく*Si*を使う）、Good morning/Good afternoon = *Bonjour*、Good evening = *Bonsoir*、Good night = *Bonne nuit* 「ニュイ」、See you = *Au revoir*、Thank you = *Merci*、Thank you very much = *Merci beaucoup* 「ボク」、Your welcome = *Je vous en prie* 「ジュ・ヴ・ザン・プリ」、Please = *S'il vous plaît* 「シイル・ヴ・プレ」（S.V.Pと表記することもある）、Excuse me = *Pardon*、After you = *Après vous*、Good = *Bien*、Very good = *Très bien*、Here it is = *Voilà*、I see = *D'accord* 「ダコール」、Water = *Eau*、Mineral water = *Eau minérale*（レストランでただの水が欲しければ、*Une carafe d'eau, s'il vous plaît*）、drink = *boisson*、Hot = *Chaud*、Cold = *Froid*（水道の蛇口の栓に書いてある水や湯を表すFやCはこれらの頭文字）、Big = *Grand*、Small = *Petit*、Left = *Gauche*、Right = *Droite*、Here = *Ici*、There = *Là-bas*、Non smoke = *Non fumeur*、Open = *Ouvert*、Closed = *Fermé*、Cashier = *Caisse*、Pull = *Tirez*、Push = *Poussez*、Station = *Gare*、Bus stop = *Arrêt*、Next stop = *Prochain arrêt*（ジュネーブのバスアナウンスで必ず聞いているでしょう）、Number = *Numéro*、One o'clock = *Une heure* 「ユヌール」、Two o'clock = *Deux heures* 「ドゥ・ズール」、Noon = *Midi*、Monday = *lundi*、Tuesday = *mardi*、Wednesday =



mercredi、Thursday = *jeudi*、Friday = *vendredi*、Saturday = *samedi*、Sunday = *dimanche*（フランス語では曜日は小文字で書く）。

なお、*Je vous en prie* 「ジュ・ヴ・ザン・プリ」の*vous en*や*Deux heures* 「ドゥ・ズール」のように、発音しない語尾の子音の次に母音（hは発音しない）がくるときは、その子音が発音されることがある。これを*liaison* 「リエゾン」と言う。必ずリエゾンする場合、リエゾンしない場合、どちらでも良い場合等があるが、サバイバルなので詳細は省略する。

5. 文章・文法編

まずは、簡単な疑問詞から。

What is this? = *Qu'est-ce que c'est?* 「ケス・ク・セ」、Who is it? = *Qui est-ce?* 「キ・エス」、Where? = *Où?*、Where is the toilet? = *Où sont les toilettes?*、Why = *Pourquoi?*、When = *Quand?*、How much? = *Combien?*、How? = *Comment?*、What? / Which? = *Quel?*、What time? = *Quelle heure?*

文章をしゃべるには、人称代名詞を知らなければならないので、これを次に挙げる。本当はその前に定冠詞、不定冠詞のことを書くべきだが、フランス語では、それぞれに男性・女性、さらにそれぞれの複数形があってややこしいので、サバイバルフランス語としてはあえて触れない。また、下記斜線で区切って並べてあるものは、男性/女性だったり、普通形/強勢形だったりする。この他にも複数形があったり、直



接目的語と間接目的語で違ったりするが、これもややこしくなるので説明は省略する。

I, my, me = *Je, mon/ma, me/moi*、You, your, you = *Vous, votre, vous*、We, our, us = *Nous, notre, nous*、He, his, him = *Il, son/sa, le/lui*、She, her, her = *Elle, son/sa, la/elle*、They, their, them = *Ils/Elles, leur, les*

人称代名詞を英語のbe動詞に当たる*être*と組み合わせると次のようになる（英語のbe動詞と同じで、*être*が跡形もなく変化することに注意）。

I am = *Je suis* 「ジュ・スイ」、You are = *Vous êtes* 「ヴ・ゼトウ」、We are = *Nous sommes* 「ヌ・ソム」、He is = *Il est* 「イ・レ」、She is = *Elle est* 「エ・レ」、They are = *Ils sont* 「イル・ソン」、They are = *Elles sont* 「エル・ソン」（全員女性の場合）

I am Japanese = *Je suis Japonais*、He is a musician = *Il est musicien*（職業を言うときは冠詞は不要）、We are four = *Nous sommes quatre*（レストランで人数を聞かれた時などに答えとして）。

次が英語のhave動詞に当たる*avoir*との組み合わせ。

I have = *J'ai* 「ジェ」、You have = *Vous avez* 「ヴ・ザヴェ」、We have = *Nous avons* 「ヌ・ザボン」、He has = *Il a* 「イ・ラ」、They have = *Ils ont* 「イル・ゾン」

ここまでくると次のような言い回しは何となく理解できると思う。

What's your name? = *Quel est votre nom?*、How old are you? = *Quel âge avez-vous?*

フランス語では、主語と動詞の順序を逆にして疑問文にするが、普通文のまま単に語尾を上げて疑問文とすることも多い。

Do you have sandwiches? = *Vous avez des sandwiches?* (*des*は複数形の不定冠詞)

Do you have daft beer? = *Vous avez de la bière pression?* (*de la*は不加算名詞につく不定冠詞（部分冠詞）の女性形）などの言い回しは覚えておくと使える。フランス語の冠詞はややこしいが、サバイバルフランス語としては、とりあえず無視してもレストランなどでは分かってもらえる (*Vous avez pression?* = 「生」ある? という感じ)。

6. 応用編

以下、知っておくと便利な用語、言い回し等を思いつくまに書いておく。

How are you? Fine, thank you. And you? Very fine.

= *Comment allez-vous?* 「コマン・タレ・ブ」 *Bien merci. Et vous? Très bien.*

How are you going? Fine, thanks. And you? So so. Bye.

= *Comment ça va?* 「コマン・サ・ヴァ」 *Ça va bien, merci. Et toi? Pas mal. Salut.*

This is a book. This is Jacques. My name is Atsuko.

= *C'est un livre.* 「セ・タン・リヴル」 *C'est Jacques. Je m'appelle Atsuko.*

It is nice to meet you. Where do you stay? I stay Hotel Cornavin.

= *Enchanté. Où logez-vous? Je loge à l'Hôtel Cornavin.*

Would you repeat, please? = *Voulez-vous répéter, s'il vous plaît?*

Would you speak more slowly? = *Voulez-vous parler plus lentement?*

I don't understand. = *Je ne comprends pas.* (*ne*+動詞+*pas* で否定形)

I don't know how can I say in French. = *Je ne sais pas comment dire en français.*

I'm sorry but... = *Je suis désolé, mais...*

I'm sorry for waiting you. = *Je suis désolé de vous avoir fait attendre.*

I'll wait for you at two o'clock at Café de Paris. = *Je vous attends à deux heures dans le Café de Paris.*

English menu, please. = *La carte anglaise, s'il vous plaît.*

Wait a little, please. = *Attendez encore un peu, s'il vous plaît.*

What is your advise? = *Qu'est-ce que vous conseillez?*





(コンセイユ)

Which is your specialty? = *Quelles sont vos spécialités?*

It's for me. = *C'est pour moi.* It's for him/her. = *C'est pour lui/elle.*

It's delicious. It's very good. It's excellent. = *C'est délicieux. C'est très bon. C'est excellent.* 「セ・テクセラン」

Would you please pass me the salt? = *Voulez-vous me passer le sel, s'il vous plaît?*

What do you want? = *Que désirez-vous?* I'd like a bag. = *Je voudrais un sac.*

I take this = *Je prends ça.* I take two. = *J'en prends deux.*

Give me three package. = *Donnez-moi trois paquets.*

Give me it 200 gram. = *Donnez-m'en 200 grammes.* It's all. = *C'est tout.*

Do you accept the credit card? = *Acceptez-vous cette carte de crédit?*

Where can I find the taxi station? = *Où se trouve la station de taxi?*

To Cornavin station, please. = *À la Gare Cornavin, s'il vous plaît.*

Stop here, please. = *Arrêtez-vous ici, s'il vous plaît.*

Do you stop at ITU? = *Vous arrêtez à l'UIT?*

Excuse me, I'll get off. = *Pardon, Je descends.*

What's the weather? = *Quel temps fait-il?*

It's fine. = *Il fait beau.* It's bad. = *Il fait mauvais.* It's hot. = *Il fait chaud.* It's cold. = *Il fait froid.* It's cool. = *Il fait frais.* It's warm. = *Il fait doux.*

The museum is open from 9 o'clock to 5. = *Le musée est ouvert de 9 heures à 5 heures.*

(from ... to ..., = *de ... à ...*)



7. おわりに

流暢にフランス語がしゃべれる人が書いてもサバイバル感が出ないというので、私にお鉢が回ってきたが、冒頭に書いたようにきちんと学んだことはない。それでもこの程度の知識があれば何とか生きていけそうなレベルだと思う。発音とつづりに大分ページを割いたが、何しろ読めないと頭に入らないし、冠詞が落ちたり文法が多少おかしくても通じるが、発音が悪いとどうしようもない。これまで見てきたようにフランス語はつづりが長くても発音が短いものが多いので、少し発音がおかしいと他の語に聞こえてしまう。逆に男性・女性、複数形等で語尾変化が多いが、語幹しか発音しなかったりするので、しゃべるときはあまり意識しなくても何とかなる。そのあたりがお分かりいただければと思う。